



## 今月の主な目次

- 放牧地の追播事例紹介
- グラスサイレージ調製のポイント

- 営業所からのお便り(4)  
釧路営業所からの紹介：現場の発案から生まれる新しい飼料
- 子牛用人工乳「ハイパスフード40」のご紹介

## 時の話題

### 北海道農業の位置づけ

北海道農業は国内産出額で12%、国内カロリー供給量で21%を占めています。国内農業で重要な位置づけにあるのは言うまでもありませんが、その農畜産物の品質、安全・安心に対する信頼においても消費者は認めるところであり、また食料安定供給面でも北海道農業に対する期待は大きいものとなっています。更に日本の食料の安全保障を考える上で、北海道農業の発展は欠くことができないのは当然の事であります。

北海道の2009年主要品目農業産出額を見ると、乳用牛3,502億円(全国1位)、野菜1,786億円(全国1位)、米1,255億円(全国2位)、いも632億円(全国1位)、肉用牛587億円(全国3位)、工芸作物495億円(全国1位)、麦418億円(全国1位)、豆類362億円(全国1位)、豚344億円(全国5位)、鶏341億円(全国7位)、花卉131億円(全国8位)となっております。この数字からもわかるように、北海道は酪農王国から野菜、米を含めて総合的な農業生産において全国で圧倒的な地位を築いております。日本の重要な食料供給基地としての北海道農業は国民の食を守る共通財産であり、農業の持続的安定経営は国策として進めなければ、国の将来はないと言っても過言ではないと思います。

現在、民主党による農政の大転換が進んでいますが、自然相手の農業の不安定面をしっかりと理解し、安定生産・安定経営そして生産拡大に向けて、社会投資を間違わない様にしなければならず、現政権にはそれを期待するところです。

平成22年度の生乳生産見通しが1月末にJミルクから発表されています。全国で7,835千トン(99.2%)、北海道3,960千トン(100.6%)、都府県3,875千トン(97.6%)となっており、北海道の全国生産量におけるウェイトは益々増してきました。この潮流を2000年以降で整理すると北海道は2010年/2001年対比107.9%となり伸ばしてきましたが、都府県は同じ対比で83.5%となり急激に落としてきています。一方北海道の酪農家戸数は7,000戸を割り出し大規模経営の割合が増えてきています。出荷乳量で3,000トン以上の経営は、全戸数に対して約8-9%となり、乳生産でも27-28%となっています。年々生乳生産では北海道の

シェアが増加し、それを牽引しているのが大規模経営と言う構図になっています。酪農総合研究所の推測では2020年の酪農家戸数は5,800戸まで減少し、家族経営による小規模メガファーム(出荷乳量1000t-2000t)と共同経営、企業経営による大規模メガファーム(3000t以上)の双峰型になると言われています。

酪農経営の大規模化はコスト低減や作業の効率化において有効な方向とは思いますが、大規模経営故の課題も多々あります。生産技術・経営管理が併行してレベルアップしなければ、収益を上げることが出来ず、逆に糞尿処理や飼養管理の不徹底により問題を肥大化させてしまうこともあり、トータル的な経営管理が必要となってくるでしょう。ここで見逃してならない事としては自給飼料の品質があります。昨年は全道的な天候不順による乾草、サイレージの品質低下があり乳生産に影響をきたし、酪農家の皆さんも飼養管理の基礎となる自給飼料の重要性を実感されていると思います。自給飼料の品質低下の要因はもちろん天候に左右されることが多いのですが、牧草地の荒廃も見逃せません。弊社の道内牧草地調査では雑草(シバムギ、リードキャナリー)による植生不良化が進んでいることが判明いたしました。それがサイレージ品質不良化をもたらし、乳生産に多大なる影響を与えていると思われる。経営規模が拡大すればするほど牧草地管理に手が回らず悪循環に入る危険性があります。安定した経営には計画的な草地改良が必要であり、真剣に取り組む課題と考えております。

今年1月末に酪農総合研究所主催によるシンポジウムが開催されましたが、その中でJA道東あさひの取り組みが紹介されました。経営の大規模化が進みコントラによるサイレージ調整が増加しましたが、サイレージの品質低下が問題となりJAと関係機関が連携し「サイレージ品質向上プロジェクト」を立上げ成果を上げていくという報告でした。また同じく草地改良にも取り組み「草地簡易更新プロジェクト」を立ち上げ、これについても成果を上げておりました。このような自給飼料に正面から立ち向かう姿勢に対しては心強く思いますし、敬意を表したいと思いました。

雪印種苗は現在進めています、北海道包括的連携協定を再度4月より更新し、酪農の振興に関する事項で「良質自給飼料生産拡大支援」を更に進めていく予定でおります。この活動が全道的な展開となり、力強い北海道酪農の構築に少しでも寄与できれば大変嬉しいと思っております。

以上